



平成19年10月15日

2面	上大島公民館・おとまり会 上片桐公民館 絵手紙教室
3面	松川町音楽祭
4面	みんなで仲良く 町の埋蔵文化財
5面	スポーツ・情報 ひと・すぼとこ
6面	こどもの詩・俳句・短歌
7面	声・視点・べんべん草
8面	

まつかわ百景

⑬

「運動会」

女の子がするすると竹を登る姿に、場内から大きな歓声があがった(中央小学校)



昨年農業委員会の視察で、飯山市の農集排でバイオ酵素を使い汚水を発酵処理し、その水を農作物の栽培に利用している施設を視察しました。

現在、200余名の方がこの処理した水をアスパラ栽培に使い農薬を約50%減、化学肥料も

少量しか施さずに通常の1・5倍の収量を上げているとのこと、また東御市の酪農家では、積まれた堆肥が甘い匂いがしハエの代わりにミツバチが寄って来ているのに驚きました。発酵処理した尿は琥珀色をし、「宝の水」と呼び近所の農家が利用組合を作り、野菜などの栽培に使っていました。

この視察が発端で農業委員の有志が、乳牛の尿尿で酵素液肥を造り人と環境にやさしい循環型農業の実現に動き出しました。そして

酪農家や町の協力を得る中で県の「元気づくり支援事業」の補助を受け、大掛かりな

昨年農業委員会の視察で、飯山市の農集排でバイオ酵素を使い汚水を発酵処理し、その水を農作物の栽培に利用している施設を視察しました。

現在、200余名の方がこの処理した水をアスパラ栽培に使い農薬を約50%減、化学肥料も

少量しか施さずに通常の1・5倍の収量を上げているとのこと、また東御市の酪農家では、積まれた堆肥が甘い匂いがしハエの代わりにミツバチが寄って来ているのに驚きました。発酵処理した尿は琥珀色をし、「宝の水」と呼び近所の農家が利用組合を作り、野菜などの栽培に使っていました。

この視察が発端で農業委員の有志が、乳牛の尿尿で酵素液肥を造り人と環境にやさしい循環型農業の実現に動き出しました。そして

酪農家や町の協力を得る中で県の「元気づくり支援事業」の補助を受け、大掛かりな

昨年農業委員会の視察で、飯山市の農集排でバイオ酵素を使い汚水を発酵処理し、その水を農作物の栽培に利用している施設を視察しました。

現在、200余名の方がこの処理した水をアスパラ栽培に使い農薬を約50%減、化学肥料も

少量しか施さずに通常の1・5倍の収量を上げているとのこと、また東御市の酪農家では、積まれた堆肥が甘い匂いがしハエの代わりにミツバチが寄って来ているのに驚きました。発酵処理した尿は琥珀色をし、「宝の水」と呼び近所の農家が利用組合を作り、野菜などの栽培に使っていました。

この視察が発端で農業委員の有志が、乳牛の尿尿で酵素液肥を造り人と環境にやさしい循環型農業の実現に動き出しました。そして

酪農家や町の協力を得る中で県の「元気づくり支援事業」の補助を受け、大掛かりな

昨年農業委員会の視察で、飯山市の農集排でバイオ酵素を使い汚水を発酵処理し、その水を農作物の栽培に利用している施設を視察しました。

主張

人と環境にやさしい 循環型農業の実現に向けて

酵素液肥製造のプラントも稼働始め、11月始めには日量1トンの発酵液肥が安価で製造されます。この量は松川町の約100ヘクタール以上の農作物(果樹・野菜・米・花)に施せます。それによって減農薬・減化学肥料による農業コストの削減、農業収入の増加が見込めます。そして人と環境にやさしい循環型農業が実現出来ると考えます。この酵素発酵液肥「宝の水」の利用は会員組織により運営しています。現在会員は30余名ですが、100名位まで利用会員を募集中です。

そしてこの仲間の会が、夢のある農業を実現するため、低コストの栽培技術を確立し、消費者ニーズに定める味の良い高品質で安心安全な農産物の生産を行います。

ブランド化による有利販売に結びつけたいと考えます。

ナチュラルアースまつかわ

小原 健

おとまり公民館

上大島公民館・育成会共催

9月1日(土)～9月2日(日)



池でイワナとり

朝夕少しずつ涼しくなってきたこの時期、上大島公民館では、全く新しい事業である「おとまり公民館」が同公民館社会部と、育成会の共催で行われました。おとまり公民館とは文字通り子供（小学3年生以上）が公民館に宿泊をする事、軽い運動、レク、料理作りを子供主体で考え、行う事業です（大人のサポート必須）。

1日目は午後3時集合でした。参加した子供は11名で、子供の活動を助けるスタッフは公民館の部員です。各自の名前がわかるように全員が胸に名札をつけました。

公民館の講堂で行われたオリエンテーションで湯澤徳晴館長は「お友達と仲良く元気に助けあつて過ごしたことが大人になってきつと役に立ちます。今日はおじさん、おばさんの言うことをよく聞いて楽しいおとまり会にしましょう」とあいさつ。子供たちのちよつと照れくさそうな自己紹介のあと、館長の家へ行き魚つかみをしました。

「あくまでも子供たちにさせてみる」とスタッフの一人はいいます。子供に自主性をうえつけるには第一にやる気を起こさせ、尚かつ考えさせるように環境づくり



天体観測をしたよ

をし、より良い方向性を与えていかなければならないと話します。本当に子供のためになる育成事業とは、えてして長い時間がかかるものかどうかでしようか。

魚はイワナで獲つた分は晩ご飯のおかずになるそうです。大きなイワナでした。子供たちの印象もだいぶよかつたようでした。

魚を獲つて戻ってきた公民館では夕食の準備をします。本日のメニューはメインのカレーと、イワナの塩焼き、ちゃんちゃん焼き、野菜サラダです。包丁できざむ具の大きさなど子供にまかせてあるよう



上手にむけるかな

当するスタッフの指示のもと、調理をすすめていました。

完成したカレーは具もやわらかく、なかなか好評でした。そのあと望遠鏡を使った天体観測をしました。そして、自由時間をはさんで、就寝となります。男性2名女性1名のスタッフが一緒に泊まりました。

翌朝2日目は、6時起床でラジオ体操をし、朝食の後、公民館の掃除、清掃。次いで反省、感想文を書き、ドッチビーを参加者全員でして、10時にお開きとなりました。

初めての試みとしては成功だった「おとまり公民館」。「よく話を聞いてくれた子供たちでした。今年参加してくれた子供が来年もやりたいと言つて、また参加してくれると嬉しい。」と上大島公民館社会部

長の林さん。

「昔は地域に児童会のような組織があつて、高学年の子供がリーダーになり、飯盒炊さんのような行事をしていたが、今は親中心であり何でもしすぎている。昔のように家で手伝いをして子供も少なく、何をしたらいいのかわからないので一つ一つ大人が教えながら、子供参加のこういった事業は進めていかなければならない」と続け、最終的には子供たちだけで計画から準備、運営までできるのが理想ですと話された。

今後の方向性としては、来年度以降子供たちの要望を取り入れながら、大人の思い、諸経験を折りまぜ、事業を展開していきたいということでした。

この事業は平成18年度、公民館研究会の基調講演「生きる力を育むー現実への反省」で話題提供があり、その後の分散会・地区館討議で意見交換がなされた事をきっかけとして、上大島公民館社会部が中心となり、計画、運営したものです。

絵を通じ 友とふれあう 上片桐公民館絵手紙講座

上片桐公民館絵手紙講座は毎月第2、第4火曜日の夜に上片桐公民館で開かれ1回1時間半ほどで活動されています。

この講座は6年程前から活動を始め、現在18名が在籍して描く事を楽しんでいます。受講者は女性が多いですが、幅広い方が在籍していて男性はもちろん、今までには夫婦で受講された方や、おばあちゃ



熱心に教える大沢先生

んと孫で受講された方もいたそうです。

生徒の皆さんは文化祭への出展を目標として活動をしていて、描きためた作品の中から2〜3点を各自選んで出品するそうです。

講師を務める大沢治さんは子供の頃から絵を描くのが好きで今でも楽しんで描いてい



真剣な生徒さん達

るそうです。

受講生の方も

「先生が丁寧な教えてくれてとてもいい」「先生が少し手を入れるだけで凄く変わる。自分ではうまく行かない所も先生が1筆、2筆入れるだけでとても良くなる」

「1本の筆だけで細かい所から太い所までしっかりと描



本物と見分けがつかない筆さばき

き分けてしまうから凄いと信頼しています。

講座では皆さんおもしろい花や果物を題材とし、真剣に描かれています。

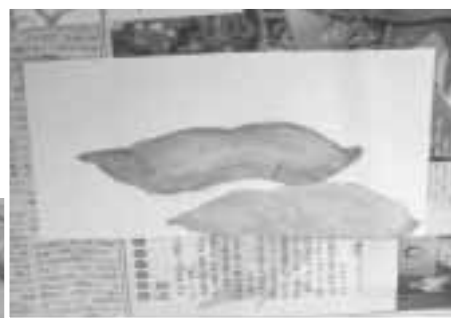
大沢さんに聞いた所、紙質によって書き方を変えるそうです、画用紙はあまりにじまないので色を塗る時に薄く何回も塗り重ねるときれいに描けるそうです。和紙はにじみやすいので、そのおもしろさを生かす為にも重ね塗りは多くても3回ほどにすると良いそうです。

皆さん1回の講座でだいたい2〜3枚の絵を描き上げていました。

受講生の1人は

「仲間のみんなに会えるのをたのしみに出でくる。みんなで作品を見せあって感想を言い合っている時がいちばんたのしい」

とこの講座をたのしみにしていきました。



みなさんの力作です！



上片桐絵手紙講座では、有線放送、広報などで参加者を募集しているそうです。楽しく出来るので、初心者の方でも安心して参加してほしいとの事です。

耳から訪れる芸術の秋：9月16日(日)町民体育館トレーニングルームにて第18回松川町音楽祭が開催された。早速今年に残暑を感じる中での開催となった。

第18回 松川町音楽祭

集まった聴衆の熱気あざれる会場に爽やかな歌声が響く：第1部合唱の1番手は女声コーラス「桐」は「ノースайд」「三日月」のポップス2曲を披露。続いて、中央小合唱団が愉快な振り付けで「おはようゆでたまご」他2曲を元気良く発表。

楽しい様子にこちらも身体をスイングしよう。

ロングヒットを記録している名曲「千の風になって」と「瑠璃色の地球」をしつとりと歌い上げたの松川コーラスクラ



松川中央小学校合唱団



松川北小学校金管バンド

ブ。練習への参加は家族の温かい協力あってこそだという。第2部演奏の最初を飾ったのは北小学校金管バンド。一週間後の運動会の演奏曲「海兵隊」を指揮者のバトンとともに

への訪問発表の成果で昨年よりも更に上達した腕前により「君をのせて」他3曲を発表した。中央小金管バンドは今年3月に練習開始し、音楽祭初参加。一年未満とは思えない素晴



松川中央小学校 6年2組



女声コーラス「桐」

演奏。2曲目の「風になりたい」は音楽会で演奏した曲。グロッキーなども交えて賑やかに。昨年が続いて登場した中央小6年2組と各々手作りの「バンドーラ」老人保健福祉施設



松川コーラスクラブ

しい」全開で、「残酷な天使のテーゼ」他2曲を演奏。休憩を挟み第3部の始まりは松川吹奏楽団から。「日本の情景―秋―」お馴染みの童謡・唱歌7曲のメドレーで、実りの



松川中央小学校金管バンド

らしいハーモニーを聞かせてくれた。今年も少数精鋭で登場の松川高校吹奏楽部。7月の松高祭で70分ものライブ演奏を達成した「松吹魂(まっすい)だま

ズ」を演奏。聴衆は最高潮に達し、今年もエンディング曲「Believe」は会場の参加者の歌声が加わり、ここに「第18回松川町音楽祭」という組曲が完成した。

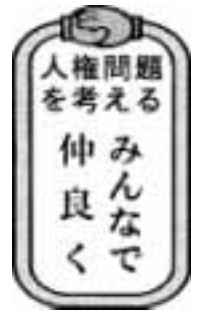


松川吹奏楽団&松川中学校吹奏楽部

秋の到来を祝福。松川中学校は「ルパン三世のテーマ」他2曲、ノリのよさでチヨイスした楽曲で会場を盛り上げる。続いて松川吹奏楽団も加わり、「フィエラ・ウイン



松川高等学校吹奏楽部



社会を明るくする運動

松川中学校3年 高田あゆみ
 今年の春、不幸な出来事が起こった。

私の親戚のおじさんが、急にクモ膜下出血になってしまった。その日のおじさんは、2日前から頭が痛いと言いはじめた。ただの疲れだと思っていたが、いちおう病院でみてもらうことにした。おじさんと、その日一緒に行ったおばさんが待ち合いですで待っていた。するとその時だった。いきなりおじさんが倒れたのだ。急な出来事におばさんは驚きを隠せずにいた。

まもなくクモ膜下出血とわかった。しかも、血管が生まれつき細かったらしく、手術をしても危ないで、手術はできなかつた。家族親戚中が絶望的だった。九州に住んでいる親戚も、すぐにその日に駆けつけた。数日後、その病院では、もう手が負えないと言われ、あとは、本人の生きるという気力と、家族や親戚の強い祈りしかなかった。そして、いつ息が止まるかわからない状態を見守りながら奇跡を信じていた。

病院の近くに、善光寺があった。ほぼ毎日のように朝、おばさんは手をあわせに行くらしい。それを聞いたとき、私は凄く感動というかびつくりした。おばさんすごいと思った。

私のお母さん達は、2時間かけて、一週間に一度は見舞いに行つた。私も行つたが、まだ見せられる状態ではないなどと言われ、休憩室で待つていた。おじさんは右を麻痺して、感覚がなくなつたらしい。

何日も何日も、私はお母さんが話してくれていることしか、おじさんの状態はわからなかつた。でも、そんな話を聞いていると、頭の中で、原因もわからない高熱や病気で苦しんでいるおじさんが目に浮かんで涙が止まらないうきもあつた。おじさんには、すぐががんばつてほしいからだと、思う。あとはもう、みんなが奇跡を信じて、神だのみくらいか、できることはなかつた。

でも、そんなある日のことだった。みんなの願いが届いたのか、おじさんに回復が見られた。しゃべることも少しスムーズになつてきたし、一人でご飯を食べたり、トイレに行つたりと、一人で行けることが増えた。麻痺も少しとれたらしい。それは本当に奇跡だったようで、先生も奇跡だと言つたらしい。もうみんなが喜んだ。そして何日かして、転院する

病院が決まつた。山梨県の病院だ。そこは、リハビリをするのにとてもいいところのようだ。

私は、おじさんが転院する前に会いに行つた。おじさんは手をふつてくれたし、笑顔だつた。なんか凄く安心したかんじだつた。最後に麻痺している手で握手した。しっかりと握つてくれた。だから私もしっかりと握つた。大きな温かい手だつた。そして病室を出た。廊下には、七夕の竹にたくさんの短冊が飾られていた。そこにおじさんののがあつた。見るとそこにはこう書かれていた。

「社会復帰ができますように」
 それは、麻痺している手がきき腕、だつたため、きき腕ではない手で書かれてあつた。ぎこちない字だつたが、なんかかっこよかつた。なんだかまた、涙が出そうだつた。

命の大切さはすごいものだと感じた。いつもテレビで苦しんでいる人を見ると、ただかわいそうと思ひながらも涙がでていた。実際に身内がそうなつてみると、いろんな人たちの願いとかが、すごく重いものだと感じた。奇跡なんて...とか思わず、奇跡を信じれば本当になるものなんだと感じた。
 おじさんは、山梨の病院でがんばつていたので、自分自身も受験などをがんばつていきたいと思つた。

松川町の文化財

(342) 埋蔵文化財 (240)

大島城(6) | 信玄の大島城普請命令書

教育委員会 酒井幸則

松川町の中世城館跡
 下伊那を占領してから16年後の元龜2年(1571)に、武田信玄は大島氏から撰取し家臣の日向大和守に守らせていた伊那大島城の修築を命じます。信玄の命を奉じた人馬奉行の原隼人佑昌胤はその旨を書状に認め、飯田に在城した秋山信友に伝えます。これが今日残る武田信玄下知状(朱印状)、即ち「武田信玄の大島城普請命令書」です。

これらの郷村はすべて今も地名として残るものです。今日の高森町・豊丘村から下条・泰阜村の間の郷民が大島城の普請に動員されたのです。命令書の末尾には武田家印「丸龍」の朱印が捺されています。

この命令書の中ほどまでには当時の郷村名が列挙されています。「定」に続いて、「飯沼・山本・毛賀・南山・今田・南原・市田・牛牧・吉田・河野・田村・林・小河・阿嶋・富田・虎岩・伊久間・松尾・下條・知久衆・今田衆」とあり、飯沼以下19の郷村と知久・今田の2衆が記されているのです。「ここに記した郷村の人足をもつて大島の普請を勤めろ」というもので、「あれこれ言つてこの不振を無沙汰する者は嚴重に成敗を加える」という内容です。こ



武田信玄下知状 上田市・工藤種通蔵

満喫!!スポーツの秋!

古町地区公民館 ソフトボール大会

9月16日(日) 運動公園グランドにおいて古町地区公民館ソフトボール大会が開催されました。

結果は次のとおり。

- 優勝 古町北部 自治会チーム
- 第2位 古町東部 自治会チーム
- 第3位 古町中部 自治会チーム
- 第4位 古町南部 自治会チーム

名子地区公民館 ペタンク大会

9月16日(日) 運動公園グランドにおいて名子地区公民館ペタンク大会が開催されました。

結果は次のとおり。

りんごの部

- 優勝 城北A
- 第2位 城北B
- 第3位 北垣外A

なしの部

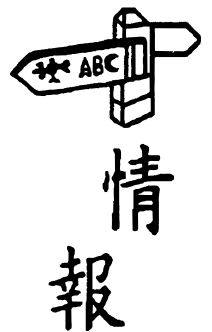
- 優勝 下垣外西B
- 第2位 名子原C
- 第3位 名子原D

第23回信毎旗争奪 ゲートボール大会

10月5日(金) 第23回信毎旗争奪ゲートボール大会が下伊那郡内より19チーム(町内より4チーム)の参加をもって松川町運動公園グランドで開催された。

- 優勝 市田柿A (高森)
- 準優勝 こぶし (松川)
- 3位 桑の実 (泰阜)

準優勝の「こぶし」チームは12月9日中川村で行われる北信越選手権南信地区予選に出場が決まった。



本館行事

〈松川町駅伝大会〉

期日 11月4日(日)
時間 午前8時 開会式
午前9時 スタート
会場 上片桐町営グラウンド
スタート・ゴール
その他 沿道での熱い応援をお願いします。

〈街頭あいさつ運動〉

期日 11月5日(月)
場所 町内各所・学校周辺
時間 7時〜8時

〈男と女いきいき講座 (第2回)〉

期日 11月15日(木)
場所 資料館視聴覚室
時間 午後18時30分〜
内容 「災害から学んだ地域づくり」

〈高齢者講座〉

「高齢者の料理教室」
期日 11月9日(金)
場所 中央公民館
時間 午前10時〜

講師 栄養士 林 龍子氏

〈家族で遊ぼう〉

(第1回)
期日 11月6日(火)
会場 おひさま
内容 講演会「子育てをエンジョイしよう」
講師 柴田文子氏

(第2回)

期日 11月20日(火)
会場 町民体育館
内容 リトミック

地区館行事

上新井地区公民館

〈パドミントン大会〉
期日 11月18日(日)
場所 町民体育館

名子地区公民館

〈区民演芸会〉
期日 11月3日(土)〜
4日(日)
場所 町民体育館

上片桐地区公民館

〈上片桐地区文化展〉
期日 11月3日(土)〜
4日(日)
場所 上片桐地区公民館改善センター

松川町体育指導委員会 優良団体表彰の栄誉

9月29日(土) 佐久勤労者福祉センターにおいて長野県体育指導委員研究協議会が開催され松川町体育指導委員会が優良団体表彰されました。

今後も、同委員会が益々活躍されますようご期待致します。





松川中「新ALT」

エリザベス・フアーメツジさん



松川中に8月から新しいALTとしてエリザベスさんが着任された。アメリカのソルトレイクシティー出身で、2人の弟と1人の妹のお姉さんだ。日本に来たきつ

かけは、環境デザインを専攻しており、浮世絵や、書道など日本の伝統的な模様に興味があったことと、友人のお祖母さんが日本人だったから。松川の印象は、緑がとてきれいで、誰もがみんな親切だということ。松川中の生徒に関して、みんなシャイだけれど、英語やアメリカ文化にとっても興味を持っていてと感じたそう。会話の最中ずっと笑顔の絶えないエリザベスさん。楽しい授業と、美しい発音を生徒に与えてくれることだろう。

上片桐公民館歴史探訪が9月23日天候にも恵まれ資料館の酒井先生を講師に迎え行われた。

道すがら酒井先生にお話を

お聞きし、昔、伊那電(現在の飯田線)が現在のように大きくカーブしたこと

のいきさつ、平石橋の上に大きな平らな石があり、そのことから橋の名前を平石橋とつけたこと、熊野神社では、伊佐那岐命・伊佐那美命(天照皇大神の両親)を大栢の産土神として祭ったことなど興

味深かった。

大栢地区のほぼ中央、飯田線の近くに社宮神とよばれる小石祠がある。高さ・台石ともに85cmで元禄12年の刻名が

すぽっと

歴史探訪について

あった。

光蓮寺には樹齢40年以上と推定される樅の木があり寺の歴史を物語っていた。

毎日が全て車で移動する生活なので、この地区に住んでいても通ったことのない道を歩き、先人達のことなど多く

下平耕司

参加者40名

つつがなく昼過ぎに改善センターに到着しました。公民館活動にご協力を賜り有難うございました。



こぶしの詩

東小學校は、「全校が仲良く、お互いに助け合える学校」という児童会のスローガンのもと、全校児童18名が毎日楽しく学校生活を送っています。

今までの生活の中でけんかをしたり悲しくなったりすることもあったけれど、それと同じくらい、気持ち温かくなったり、嬉しくなったりすることもありました。学校で、家で、地域で、言われて嬉しかった一言を一人一人書いてみました。

失敗だ

5年 下澤 天馬

「次だ！次だ！」
と言われたよ
失敗したけど、うれしいな

5年 児玉月之助

「おいしいよ
月の作った このピラフ」
言ってくれた
お父さんお母さん

6年 下澤 凌平

「おかえりなさい」
地域の人が声かけた
嬉しくなって帰れたよ

6年 遠藤 千有

「ありがとう」
毎日やってた玄関そうじ
その一言がすごくうれしい

6年 杉田 博昭

曇り空
みんなに
「おはよう」言われたよ
その日の心がだんだん晴れる

短歌

堀木 碎子

天空を突き破ることブランコを強く蹴り上げ少女は漕ぎいる

アポリジニに教わり投げしブルーメラン
高く上がれど手に戻り来ず

ダヴィンチの「受胎告知」に群がれる
人・人・人に押されつつ見る

幾万の人を呑み込み吐き出しし
東京タワーよあなたはモンスター

草むらに虫捜している子の手には
カエルとバツタ握られており

俳句

北原 泊瀬

戦なき國にひびけり遠花火

だしぬけに飛び火したかに曼珠沙華

十六夜やバレーボールのコート
照る

廃庵の軒に梵鐘鳥渡る

大花野朽ちし大樹を埋めにけり

おわび

先月号の「俳句」欄で掲載に誤りがありました。以下のように訂正しておわび申し上げます。

新涼や休耕田の草の丈



町の古民具 ㊥ うどん切り

視点

上部から練った小麦粉を入れ、ハンドルを回してうどんを作る道具。



声

公民館映画会を鑑賞して

上新井 〇

今回は、デイズニー映画「カーズ」と聞き、子供達と楽しみに参加しました。

園児の子供には、理解できるかなあと思って観ていましたが、さすがデイズニー映画だけあり、子供も大人もハラ

ハラドキドキ。喜怒哀楽を感じ、ハッピーエンドで終わり、子供達からはそれぞれに感想を聞く事が出来、「また観たいね。」という感想も。

映画は、大画面と音響の迫力がいいですね。子供達も、

テレビからの映像より、また違う何かを感じた様子でした。途中で休憩も入り、映画館で子供連れでの観賞時より、親の私もゆつたりとした気持ちで観る事が出来ました。午前中は参加者も少なく、

トランポリン教室

松村 百合彩

会場はガラガラでした。連休中という事もありますが、もつと大勢の方が観に来られるといいなあと思いました。次回も都合が合えば、是非参加したいと思います。

「トランポリン教室、始めます。」

先生の合図で始まった。今日は、トランポリン教室最終日だ。このトランポリン教室は、金曜日の七時からやっていて、合計3回しかできない。そのため一回を楽しく飛んでいる。私の一番得意な技は、こし落ちで一番使っている技だ。今日は先生が少なかったため、私は先生の代わりをした。

「こし落ちを専門に教えてあげて。」
と言われて、こし落ちをみんなに教えた。なかなかみんなにはむずかしい技だったみたいで、教える私も大変だった。
「次はひざ落ちで半回転、こし落ちだ。」
と言われて見本を見せた。



上手にとべた!!

こんどは私にも高レベルだった。練習を重ねてついにだいたい出来るようになった。「終わりです。」
これでトランポリン教室は終わった。そうじをした後公民館長さんが修了証書をくられた。来年のトランポリン教室も入ってトランポリンの上で飛びたいです。

草

「何事にも適正な数というものがある」多ければ多い程よいというわけではない、と上大島公民館の部員の方に言われたのは行事の取材で振る舞われたカレーをご馳走になっていた時のことでした。「シツたよ質。内容」ともいう。

どうやら参加人数、日程、スケジュールの量で事業の善し悪しをはかるのではなく、みんながそれぞれ自分の意志で活動できたか、意欲をもって取り組めたかなど、目にはみえない部分を評価すること、できることが大切という事らしい。

自分の考えをしつかりもった大人に見守られ、運動やゲーム、おしゃべりを思う存分楽しんだ子供たち。「黄金世代」「松坂世代」ではないけれど、どんな育てられ方をした世代でも欠点が見え隠れするのが世の常、それを克服するのがその世代、その世代の課題になるのかもしれない。さて、館報の縮刷が8月に完成しました。今回は301号から500号までの縮刷だそうです。最古号から現役までの編集部員の思いが伝わっています。公民館、図書館でみかけたら、ぜひパラパラとひらいてみて下さい。

鈴木一弘

公民館報
「まっかわ」
第 528 号
平成19年10月15日

発行所 松川町公民館
責任者 松村直彦
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)